

## 支柱の補修条件

### 1. 目的

本書は、「富山県ゴルフ練習場土地・施設利活用に係る公募型プロポーザル」において、富山県と契約締結予定の「条件付き建物等売買契約」（以下、「売買契約」という。）における支柱の補修の条件を示すものです。

### 2. 支柱の補修条件

売買物件の引渡しを受けたから 1 年以内を期限とし、下記のとおり指定する補修条件を満たす工事を買受人の負担で完成してください。

引渡しを行う売買物件のうち「支柱」について、補修工事終了後事業運営上使用する形態（支柱の高さや支柱に付随するネット張りの有無等、運営事業に応じた支柱（その他付随する設備等）の活用形態をいう。）で、応力計算の結果支柱に損傷が認められる風速（補修工事終了後の支柱鋼管の肉厚や支柱の高さ等の情報から応力計算を行うことで導出される、支柱に損傷が認められる風速をいう。）が「風速 15  $\frac{\text{m}}{\text{s}}$ 」以上となるような状態にすること。

なお「応力計算の結果支柱に損傷が認められる風速が『風速 15  $\frac{\text{m}}{\text{s}}$ 』以上となる」ために必要な補修について、富山県では下記のとおり想定しております。

※あくまで想定であり、補修方法を制限するものではありません。

#### ① 支柱を現形態のまま使用する場合

【参考資料 4】にて示した支柱劣化調査結果において「D ランク」と結果が出た全 18 本の支柱の補修が必要と想定しております。具体的な方法は下記＜補修方法（①及び②共通）＞のとおりです。なお、全 18 本の支柱の補修を完了する場合は、「3. その他条件」にて提出を求める記載をしている「応力計算の証明資料」の提出は不要です。

#### ② 支柱の形態を変更する場合

具体的な補修方法は、①と同様に下記＜補修方法（①及び②共通）＞のとおりを想定しております。なお、活用する支柱の形態により応力計算の内容に変化が生じるため、「3. その他条件」にて提出を求める記載をしている「応力計算の証明資料」の提出が必要となります。

※富山県が任意に支柱 1 本を抽出し、実施した応力計算の結果を【参考資料 7－2】に記載しますので、参考にご確認ください。

< 補修方法（①及び②共通） >

- ・ 支柱鋼管部は塗装劣化が全体的に認められることから、塗装塗替を行って鋼管表面を保護する。
- ・ 基部の腐食は部分的であるが進行していることから、支柱の耐力を回復させるために、腐食箇所の錆を除去し、当板補修をした後、再塗装を施す。
- ・ 鋼管部全体を炭素繊維による巻き立て補強を施す。
- ・ 鋼管用の補修ソケットで腐食箇所を塞いだ後、隙間を樹脂で埋める。

3. その他条件

「2. 支柱の補修条件」に挙げた条件のほか、下記の条件を遵守してください。

- ・ 支柱の補修における工事手法及び重機、資材、廃棄物等の運搬、搬入・搬出等、処分等について、各種関係法令等を遵守すること。
- ・ 敷地内への重機、資材、廃棄物等の運搬、搬入・搬出等にあたっては、事前に関係行政機関と十分協議することとし、周辺道路をはじめこれらの運搬車両が通過する沿道地域に対する騒音、振動、砂埃等による悪影響を及ぼすことのないよう十分に配慮すること（必要に応じて工損調査等を実施すること。）。
- ・ 作業期間中は、敷地内の周辺住民や隣接道路の通行人の安全確保及びプライバシーの確保に配慮すること。なお、周辺住民や自治会等への説明、調整対応等については買受人の責任においてをもって十分に行い、事業の前後に関わらず紛争等が生じた場合は、買受人の責任と費用負担において対応し解決すること。
- ・ 支柱の補修工事を第三者に請け負わせる場合には、当該請負業者に対し、事業計画に定める内容について、十分に理解・遵守させること。
- ・ 支柱の補修工事が完成した後、事務局に工事内容がわかる書類（図面、仕様書、必要な場合は応力計算の算出資料等）を提出すること。
- ・ このほか記載のない事項については、富山県との協議のうえ決定すること。